

2026 年度川淵賞（英文部門）受賞のお礼

宮城県立こども病院 脳神経外科
尾崎 弾

このたび、第 54 回日本小児神経外科学会におきまして、2026 年度川淵賞（英文部門）という栄誉ある賞を賜りましたこと、誠に光栄に存じます。ご選考くださいました先生方、ならびに学会関係者の皆様に、心より御礼申し上げます。このような賞を頂戴できたことを、大変ありがたく受け止めております。

今回受賞の対象となりました論文は、脊髄髄膜瘤患児における係留脊髄症候群に対して、早期に係留解除術を行うことの意義を、主として尿流動態検査所見および下部尿路機能の観点から検討したものです。脊髄髄膜瘤の患児では、成長の過程で係留脊髄症候群をきたし、運動機能や感覚機能のみならず、膀胱機能にもさまざまな悪化を生じることが知られています。一方で、その診断は必ずしも容易ではなく、出生時から神経学的所見を有する患児においては、変化を客観的に捉えることが難しい場合も少なくありません。

本研究では、定期的な尿流動態評価を継続することによって、下部尿路機能の悪化を比較的早期に捉え、それを契機として係留解除術を行うことで、膀胱機能の改善・維持につながる可能性が示されました。係留脊髄症候群に対する治療の意義は、単に神経学的悪化の進行を防ぐことにとどまらず、長期的な泌尿器学的予後の改善にも寄与しうる点にあると考えております。日常診療のなかで、脳神経外科と泌尿器科をはじめとする多診療科が密接に連携しながら患児を継続的に診ていくことの重要性を、あらためて示すことができたのではないかと感じております。

現在は島根大学へ異動されました君和田友美先生には、研究の着想の段階から論文発表に至るまで、多大なるご指導とご尽力を賜りました。また、研究を進めるうえで多くのご示唆とご協力をいただいた諸先生方にも、深く御礼申し上げます。さらに、日頃より脊髄髄膜瘤診療において密接に連携し、尿流動態評価や下部尿路管理の面から本研究を支えてくださった泌尿器科の先生方にも、心より感謝申し上げます。多くの先生方のご指導、ご支援、ご協力があったこそ、本研究を形にすることができ、このたびの受賞につながりましたことを、心よりありがたく存じます。今回の受賞を大変光栄に存じますとともに、あらためまして関係の皆様にも深く感謝申し上げます。

受賞論文は下記のとおりです。

Dan Ozaki, Tomomi Kimiwada, Toshiaki Hayashi, Takeyoshi Honta, Tomohiro Eriguchi,
Shinako Takeda, Kiyohide Sakai, Reizo Shirane, Hidenori Endo

“Effect of early tethered cord release on urodynamic findings and lower urinary tract function in myelomeningocele patients”

Journal of Neurosurgery: Pediatrics 35(2): 137–143, 2025

DOI: 10.3171/2024.8.PEDS24173